

知っておきたい 日本の神社と神様名鑑

市原市内の 神社と祭神



海外の神は、キリスト教やイスラム教、ヒンズー教のように「唯一絶対の神」が多く、日本では八百万の神々で、いたるところに神がいると思われ、個人的で人間的な神が多い。

日本の風土が千差万別の神々を生んだ。

先祖を大事にする日本の宗教

万物創世の話

- 天上の世界—高天原(たかあまのはら)
- 地上の世界—葦原中国(あしはらのなかつくに)
- あの世の世界—黄泉の国(よみのくに)
- あの世とこの世をつなぐ—根の堅州国
(ねのかたすのくに)



この世界は、大きく分けて「天の世界である高天原」と「地上の世界の葦原中国」そして「あの世の世界の黄泉の国」、あの世とこの世をつなぐ「根の堅州国」になる。

先ず、高天原から一柱の神「天之御中主神(あめのみなかぬし)」という「至高の根源を司る神」が登場し続いて「高御産巢日神(たかむすび)」という「統治を司る神」と、「神産巢日神(かみむすび)」という「生産を司る神」と続き、3柱の神が生まれては消え、また、生まれては消えて行きました。

この3柱の神々を総称して「造化の三神(ぞうかのさんしん)」と呼ぶ。

しかし当時は地上の世界ではなく、陸地と呼べるものもなく、地表は海に浮かぶクラゲのように水面を漂っており、その後もいくつかの神々が現れては消えたりしていた。この神々を「別天つ神(ことあまつかみ)」と言い、これらの神々には性別はなかったという。

天地開闢とは

・古事記・日本書紀では「天地開闢」(てんちかいびやく)について、天地がいかに創造されたかは記載されていないが、日本書紀では、世界の最初に高天原に相次いで三柱の神(造化の神)が生まれ、次に二柱の神、その後二柱の神が誕生した。

・その後五組十柱の男女の神々が誕生したと記されている。

天地開闢(てんちかいびやく)とは、天地に代表される世界が初めて生まれた時のことを言う。

狭義では、「いにしへの天地未だ別れず、陰陽分れざりしとき・・・」とあり古事記では、万物創世の表しとなる。

その後に男女の別のある神々が4組生まれる。

うじひにのみこと	----	すひじのみこと
おほとのじのみこと	----	すひじねのみこと
おもだるのみこと	----	かしこねのみこと
いざなぎのみこと	----	いざなみのみこと

造化の三神

- ・高天原の三神
- ・天之御中主神(アメノミナカニシノカミ)
「至高の根源」を司る神
- ・高御産巢主神(タクムスビノカミ)
「統治」を司る神
- ・神産巢日神(カミノムスビノカミ)
「生産」を司る神



万物の根源を示すと言われる三柱

古事記では、天地開闢の時に最初に生まれたされる神々で、宇宙の起源とも伝えられる。

「あめのみなかぬしのかみ」は、妙見信仰や北極星信仰とも習合し、その中心的役割を果たし、「たかむすびのかみ」と「かみむすびのかみ」は「結び」の語を含む事から「良縁」期待するようになった。

ご利益は、「健康長寿」「良縁祈願」「出産の神」と言われ、良縁祈願は「恋愛」だけでなく人や仕事などさまざまな事柄を結びつけるという意味がある。

時代で変わる神様のかたち

・神話時代

・天と地が分かれる時の訪れ。

天地開闢 (てんちかいびょう)

・イザナギとイザナミの国生み。

・国生みは、淡路島⇒四国⇒隠岐の島⇒九州⇒対馬⇒佐渡島⇒本州の順で誕生した。

? 北海道はどうなっているの



イザナギとイザナミの世代で最古の完全な一対の男女神となった。両神は、国造りの為に「天の沼矛」で「天の浮橋」という大きな橋の上から「矛」を海中に降ろして、海中を力いっぱいかき回し、しばらくしてから引き揚げると、矛先からしたたり落ちた潮が見る間に積み重なり「オノゴロ島」が出来たという。

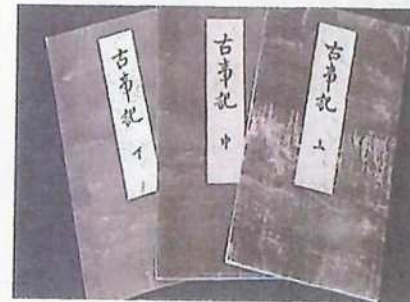
二人の神はその島に降り立ち、御柱という大きな柱を立て島を左右に分かれ巡り合った所に住み、契りを交わしたという。

その後、二人で「淡路島」を始め多くの島々を生みました。

イザナギ・イザナミの国生み地図



日本神話の歴史書



日本書記卷第一
神代上
古天地未剖陰陽不
牙及其清陽者薄靡一
地精妙之合持易重
地後定然後神聖生
壤浮漂辟猶游魚之
生一物狀如葦牙便

古事記と日本書紀

- 古事記は、現存する日本最古の書物で、和銅5年（712年）に太安万呂が編集し、元明天皇に献上された上・中・下の三巻で構成され、出雲神話を重視している。
- 日本書紀は、養老4年（720年）に編纂された古書で、神代から上古までを記した史書として、近代になって国家の聖典としてみられる。

日本の神様とは

- 日本の神道は宗教の中でも最古とされアニミズムと言われる自然信仰がある。
- 本殿などの社が出来る前は、自然にあるものを神としお祀りしていた。



神様の敬称について

- 祭神の末尾には「命や尊」という敬称が使われている。
- 呼び方は「どちらもミコト」と呼ぶ。
- 日本書紀では「命、尊」と使い分けている。
- 「尊」は高天原の神や皇室の祖先の神々に対して使う。
- 古事記では「命」の敬称のみ。
- 「尊」は、高天原にいる神々が地上に降臨された神々。
- 「命」は、降臨前から地上に土着していた神々。
- 「神」の敬称は、主に神社の祭神として神徳を発揮す時に使われる。

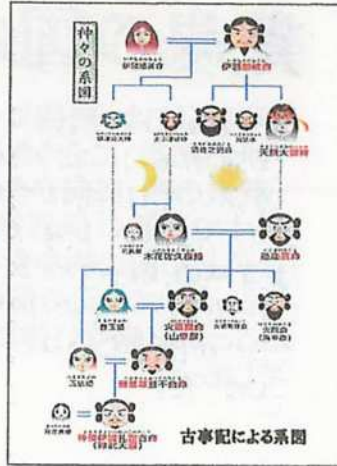
市原市内の神社の数

市内の神社数（神社庁届け出分）	524社	
名称別社数	熊野神社	42社
	八幡神社	32社
	稲荷神社	30社
	日枝神社	22社
	浅間神社	21社
	その他	279社
所在不明の神社	103社	他に無為届の社もある
市内の宮司数	14名	

神産みの話

まだ日本という国がなかった頃、
国生みの神「イザナギとイザナミ」によって多くの神々が誕生した。

彼らにはそれぞれ役割が与えられ、
日本国を統一して行きます。



伊邪那岐・伊邪那美から生まれた神々

達成神 大事忍男神 オオゴトオシオ	海神 大綿津見神 オホウツタミ	神の船 鳥之石楠船神 トリノイワクスネ	その他
土石神 石土毘古神 イハツチビコ	河口神 速秋津日子神 ハヤアキツヒコ	食物神 大宜都比売神 オオイクツヒメ	
砂神 石巢比売神 イハスヒメ	速秋津比売神 ハヤアキツヒメ	火神 火之迦具土神 ヒノカグツチ	
門神 大戸日別神 オホトビリカ	風神 志那都比古神 シナツビコ	神生み 17柱の神々 誕生	
霧神 天之吹男神 アメノフキオ	木神 久久能智神 ククノチ		
屋根神 大屋毘古神 オホヤビコ	山神 大山津見神 オオヤマツミ		
防風神 風木津別之忍男神 カザモツクノイシヲ	草神 鹿屋野比売神 カヤノヒメ		

自然を司る神々

家宅六神・建御尊

市内における伊邪那岐・伊邪那美を祀る神社

- 熊野神社 (小田部・金剛地・不入斗・深代・新巻・二日市場・西野・町田・奉免・皆吉・馬立・風戸上高根・山小川・平蔵・折津・月崎・飯給・大戸・田淵)
- 十二社神社 (片又木)
- 白山神社 (金剛地・中野・上高根・高倉)
- 山田神社 (山田)・六所御影神社 (八幡)
- 三社神社 (久保)・三峯神社 (徳氏)

伊邪那美之死

- 伊邪那美は、「火の神」の「ヒカズチノカミ」を生んだ際に陰部にやけどを負い、病床で苦しみ亡くなった。
- その時のおう吐物から6神が生まれた。



誓約(うけい)の話

「伊邪那岐命」は、三貴神の誕生を大いに喜び「天照大神」に「天の世界(高天原)」を、「月読神」には「夜の世界」を「素戔鳴尊」には「海の世界(葦原中国)」を統治するように命じた。



天照大神(アマテラスオオミカミ)

天照大神は、太陽の神と言われ天の世界(高天原)を統治する神で、三貴神の長女的存在。

弟の素戔鳴尊が原因で「岩天戸」にこもった伝説が有名。



市内で天照大神を祀る神社

天照大神は、大日靈貴神や天照皇大神などの呼び名もある。

- 明神社 (八幡北町・五所・姉崎・駒込・久保)
- 大宮神社 (五井) 田美神社 (田尾)
- 皇大神社 (金剛地) 熊野神社 (平蔵) 三社神社 (久保)
- 天照大神 (天羽田) 六所御影神社 (八幡)
- 春日神社 (松崎)・神代神社 (神代)・丸山神社 (牛久)
- 天津日神社 (馬立・古敷谷・万田野)

月読神(ツキヨミノカミ)

伊邪那岐の禊ぎから生まれた三貴神のひとつで、月や夜の世界を統治する神。

また「ツキ」と読むことから運を呼び込む神とも言われる



素戔鳴尊(スサノウのミコト)

- 素戔鳴尊は暴風の神として、厄払いの神として信仰されている。荒々しい乱行によって天上界より追放され、根の堅州国に向かうことにしたが、その前に姉神である「天照大神」に挨拶をしようと「高天原」を訪れた。



市内で素戔鳴尊を祀る神社

- 素戔鳴尊は他に須佐之男命、建速須佐之男命とも呼ばれる。
- 八坂神社(八幡・古市場・椎津・深代・海士有木・上高根・石川・市場・米沢・久保・本郷・山口・養老・古敷谷・)
- 熊野神社(五井・二日市場)
- 八雲神社(出津・青柳)
- 養毛神社(南岩崎)

天岩戸伝説

- 高天原に入ってから素戔鳴尊はその後も乱暴狼藉を行っていたので、天照大神は堪忍袋の緒が切れて、「天岩屋」に身を隠してしまい、高天原や中葦中国は暗黒の闇に包まれてしまった。



天岩戸作戦

- 八百万の神々が集まり、「思金神」のアイデアで儀式を行った鏡や勾玉などを造り、岩戸の前で祝宴を行い、どんちゃん騒ぎを行い、天照大神の注意を向けさせた。それを見ようと身を乗り出したので、力持ちの「天手力男神」が岩戸を開け、天照大神を外に引き出したという。



天岩戸伝説で活躍した神々紹介

・思金神

(オモイカネノカミ)

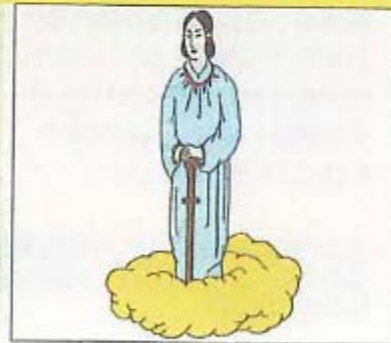
・様々な場面をサポートする
天界の策士家

ご利益は、

学業祈願・合格祈願

市内で祀られる神社

戸隠神社 (惣社)



天岩戸伝説で活躍した神々紹介

・天児屋根命

(アメノコネヤノミコト)

フトダマと共に占いを行い、
岩戸の前で祝詞を奏上した神。
藤原家の氏神と言われる。

市内で祀られる神社

春日神社 (五所・今津朝山・

山倉・松崎・飯沼)

姉崎神社・根田神社・



天岩戸伝説で活躍した神々紹介

・天手力男神

(アメノタジカラヲノカミ)

力持ちの象徴で、天岩戸の中に
閉じこもった天照大神を外の世界に
引き吊り出した神。

市内で祀られている神社

ご利益はスポーツ勝利祈願

戸隠神社 (惣社)



天岩戸伝説で活躍した神々紹介

・布刀玉命

(フトタマノミコト)

占いの神で、末裔は祭祀をを司
る氏族 (神主) となる。

天児屋根命と共に太占 (ふとまに)
と呼ばれる占いを献じた神。

ご利益は、諸願成就

市内には祀る神社は無い



天岩戸伝説で活躍した神々紹介

・天宇受売命

(アメノウズメノミコト)

神楽のルーツと言われる神で、
神々を沸かせた踊り子。

岩戸に隠れた天照大神を誘い出
すために上半身を裸で踊り、八
百万の神々を沸かせた神。

ご利益は、芸能上達



素戔鳴尊の八岐大蛇伝説

・高天原を追放された素戔鳴尊は、
出雲の国に降臨すると、目の前に
老夫婦が娘と一緒に泣いている
ので事情を聴くと、八岐大蛇の
いけにえに出されるという。

・そこで素戔鳴尊は八岐大蛇を退治した
ら娘を妻に欲しいと言い、大蛇を退治
したという伝説



大国主命(大己貴命)伝説

・若いころは「大己貴命 (オオ
ナムチノミコト)」と呼ばれて
いた。

・八十の神と言われるほど兄弟
が多かった。

・因幡にいる「ヤガミノヒメ」
に求婚をするために、兄弟で
向かう途中での、兎と出会い、
助ける伝説。



市内で大国主命を祀る神社

・国造りを始め八百万の神という。
・素戔鳴尊の子孫で、出雲の国を造った。

- ・府中日吉神社 (能満)
- ・大宮神社 (五井・小折・池和田)
- ・大国主神社 (立野・宮原)
- ・日枝神社 (海士有木)
- ・櫃狭神社 (櫃狭)
- ・國吉神社 (西国吉)
- ・金刀毘羅神社 (米沢)



大国主命は他に「葦原色許男神」や「八
千矛命」「大汝命」「大物主命」などの
呼び名があるほどモテた神で、多くの妻
が居たと云う。

菅田別命(応神天皇)

- ・八幡神社の祭神で、武将たちが崇敬した神で、領地の視察や婚姻による新たな氏族との繋がる武勇伝が多い。
- ・出世や家運隆昌として崇められ、源氏の氏神となった。



市内で菅田別命を祀る神社

- ・市原八幡神社・郡本八幡神社・若宮八幡神社（五所）
- ・白幡神社（山木・潤井戸・姉崎・中高根）
- ・飯香岡八幡神社（八幡）・八坂神社（下矢田）
- ・八幡神社（瀬又・奈良・東国吉・新堀・磯ヶ谷・二日市場・今富・海保・佐是・中・藪・平蔵）
- ・豊成八幡神社（豊成）宇佐八幡神社（廿五里）
- ・三峯神社（中高根）

倉稻魂命(宇迦之御魂神)(ウカノミタマノミコト)

- ・五穀豊穡の神様で、商売繁盛の御利益もある。全国にある稲荷神社の神として有名。
- ・ご利益として、商売繁盛
五穀豊穡



市内で倉稻魂命(宇迦之御魂神)を祀る神社

- ・稲荷神社（山田橋・五所
八幡・神崎・
岩崎・君塚・
五井・姉崎・
白塚・鶴舞・矢田）
- ・稲荷大明神（姉崎）
- ・椎津山谷稲荷神社（椎津）



瓊瓊杵命(ニニギノミコト)

- 天照大神の孫にあたる神で、宮崎の高千穂に天孫降臨伝説が有名。
- 降臨の際に、稲作をこの地上にもたらした農業の神と言われる。
- 大山津見神の次女の木花之佐久夜毘売を妻とした。長女の磐長姫とのエピソードで、神々にも寿命が出来た原因とされている。



市内でニニギ命を祀る神社

・高瀧神社 (高滝)

- 境内には他に、
- 松尾神社・神明宮・八坂神社・
- 稻荷神社・大己貴神社・竈大神
- 猿田彦神社・道祖神・白鳥神社
- 金刀比羅神社・日精神社を祀っている「合祀社殿」(市指定文化財)がある。



木花之佐久夜毘売(コノハナサクヤビメ)

- 日本書紀では「木花開耶姫」とも書く。
 - 火難の神として富士山に祀られる美神
 - 大山祇神の娘でニニギ命の妻ですが、身ごもりのことで疑われ、火中で出産をして疑いはらしたという。
- ご利益は、安産の神・火の神
安産祈願



市内の木花之佐久夜毘売を祀る神社

・浅間神社

- (下野・青柳・藪・
- 寺谷・小草畑・
- 平蔵・国本
- 古敷谷・徳氏)



大山津見神(オオヤマツミノカミ)

- 大山祇神とも言い、山の神の総元締め神様。木花之佐久夜毘売や磐長姫の父親で、伊邪那岐、伊邪那美の子孫です。
- ご利益は、金運招福
- 酒造の神とも言われる。



市内で大山祇命を祀る神社

- 日枝神社 (勝間・戸面)
- 前廣神社 (西広)
- 三嶋神社 (宿)
- 山神社 (米原・朝生原)
- 羽雄神社 (石神)
- 大山祇神社 (折津・小谷田・柿木台
・月出・徳氏・平野)

勝間日枝神社の鳥居と参道



大山咋命(オオヤマクイノミコト)

- 要地を守る頼もしい神。
- 山に杭を打つというイメージから、土地の所有を示す地虫神という。
- ご利益は、家内安全
地域鎮護



市内で大山咋命を祀る神社

- 日枝神社 (高田・大桶・鶴舞)
- 山祇神社 (八幡)・養老神社 (松ヶ島)
- 犬成神社・番場神社・大作神社
- 喜多神社・海保八幡神社・矢田神社・
- 古都辺神社・日吉神社 (浅井小向・水沢)
- 明神神社 (姉崎) 山王大権現 (外部田)

日本武尊(ヤマトタケルノミコト)

- 古事記では、倭建命と記されている
- どんなピンチでも機転を利かせて切り抜ける神。
- 景行天皇の皇子で、天皇の命で西征・東征を行った。
ご利益は、 難局打開
・ 火災予防



市内で日本武尊を祀る神社

- 若宮八幡神社 (菊間) ・ 押沼神社 (押沼)
- 御嶽神社 (皆吉) ・ 荒沢神社 (真ヶ谷)
- 白幡神社 (君塚・村上)
- 白鳥神社 (石塚) ・ 姉崎神社 (姉崎)
- 淡島神社 (米沢) ・ 島野神社 (島野)
- 小鷹神社 (不入斗) 鷲神社 (今津朝山)
- 石神神社 (石神)

その他の市内に建つ神社と神々

- 今まで紹介した神社と神々以外にも、多くの神社や神様がありますが、時間の関係で本日はここまでとさせていただきます。
- 神社にお参りする際には、その神社にはどのような神様が祀られ、どのようなご利益が有るか、境内にも祀られている社や祠も見てください、その神様にもお願いをして頂きたいと思います。

ご清聴ありがとうございました

